

KONISHI REPORT

.....

第92期 株主通信

第2四半期累計期間

平成28年4月1日～平成28年9月30日

.....

 **コニシ株式会社**

証券コード：4956



当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、力強さを欠くものの、雇用状況の改善は継続し、政府による経済対策効果などから企業収益が良好に推移するなど、緩やかな景気の回復基調をたどる一方、海外の政情不安に加え、円高や根強い世界経済の先行き不透明感が重石となり景気の先行きは不透明な状況で推移しております。

当社グループの関連業界では、住宅業界においては、消費税増税の延期により見込まれていた駆け込み需要が先送りになるものの、住宅着工戸数は高水準で推移しております。また、土木建設業界においては、都市部の再開発や建築物の補修・改修工事の需要およ

2020年 創業150周年に向け、重点施策を着実に実行してまいります。

び道路、鉄道などのインフラ整備並びに維持修繕の需要の高まりは継続しており、公共投資の増加も期待されており、自動車業界においては、九州地区の震災による影響が一巡し改善傾向が見られ始めております。

このような状況のもと、当社グループにおいては、平成30年3月期を目標到達年度とする中期経営計画の基本戦略に従い事業を推進してまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高573億29百万円(前年同四半期比1.7%増)、営業利益26億21百万円(前年同四半期比0.2%減)、経常利益24億円(前年同四半期比10.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は15億99百万円(前年同四半期比11.5%増)となりました。

さて、当社は4年後の2020年には創業150周年を迎えることとなります。bondセグメントにおいては、コ

ア事業と位置づける汎用、住宅関連、建設関連事業で販売の拡大、次の柱となる土木、産業資材分野、海外への積極展開を図ってまいります。化成品セグメントにおいては、組織の構造改革を進め、部門や国内外を問わず、成長する分野、地域に照準を合わせ、コア事業での販売を拡大するとともに、新規商材、新規顧客の開拓を図り商品の高付加価値化と海外への進出を実現できる体制の構築を目指してまいります。また、今期より関連会社3社を中心に展開する土木建築請負事業を、bond、化成品に次ぐ土木建設工事セグメントとし、更なる事業展開を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 よこ た たかし 横田 隆

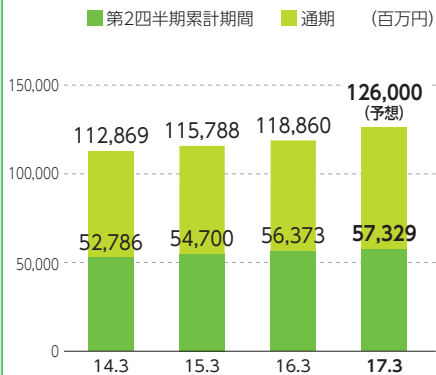
第2四半期累計期間 連結財務ハイライト (2016年4月1日～2016年9月30日)

個別財務ハイライトについてはP.8をご覧ください ▶▶▶

売上高

57,329
百万円

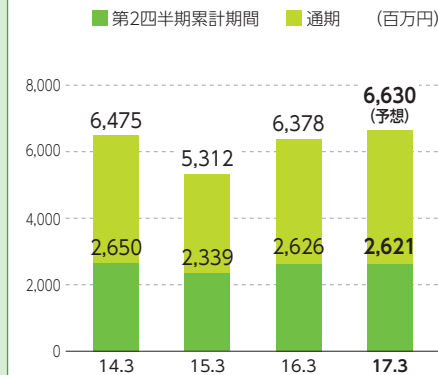
前年同四半期比
1.7%増▲



営業利益

2,621
百万円

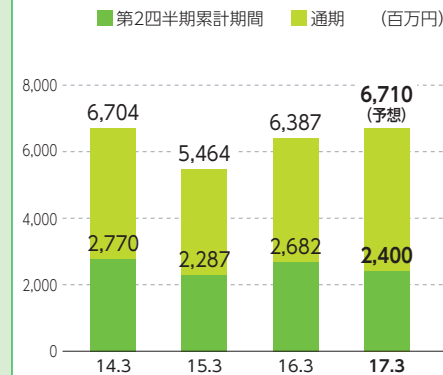
前年同四半期比
0.2%減▼



経常利益

2,400
百万円

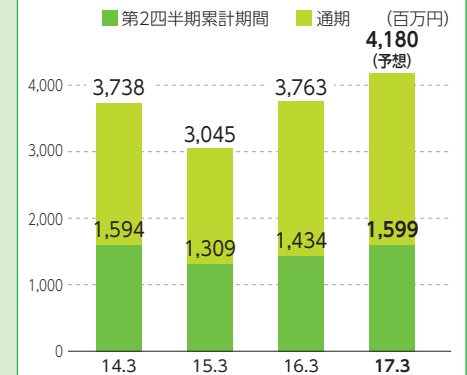
前年同四半期比
10.5%減▼



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

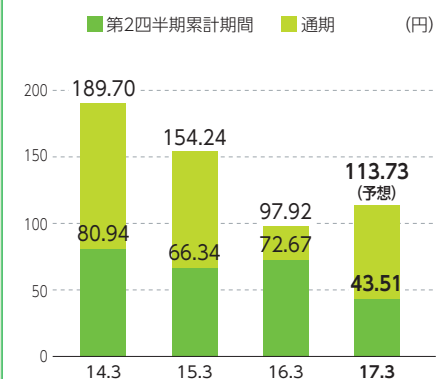
1,599
百万円

前年同四半期比
11.5%増▲



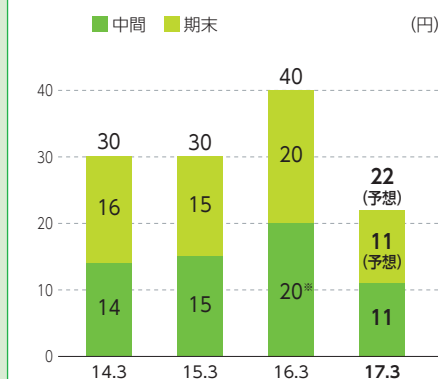
1株当たり四半期(当期)純利益

43.51 円



1株当たり中間(期末)配当金

11 円



ポイント解説

- ボンドセグメントは住宅着工戸数の増加により、住関連市場を中心に売上を伸ばしました。
- インフラおよびストック市場での補修改修・補強工事需要は継続しており、土木建設工事セグメントでの工事請負事業が売上を伸ばしました。
- 営業利益は、原材料コストの下落によりボンドセグメントは利益を押し上げましたが、化成品・土木建設工事セグメントの落ち込みがあり、全体としては前年同四半期並みとなりました。

2016年4月1日を効力発生日として、普通株式を1株につき2株の割合をもって分割しております。2017年3月期における1株当たり四半期純利益および1株当たり当期純利益(予想)については、当該株式分割後の発行済株式総数(自己株式数を除く)により算定しております。

※普通配当 15円
株式会社設立90周年記念配当 5円
2016年4月1日を効力発生日として、普通株式を1株につき2株の割合をもって分割しております。2016年3月期以前の配当については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。2017年3月期における中間配当金および期末配当金(予想)については、当該株式分割の影響を考慮して記載しております。

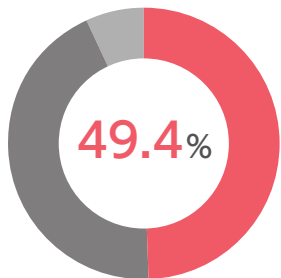
ボンド

事業内容

「ボンド」ブランドの接着剤、シーリング材、工業用テープ、離型剤、ワックスなどを製造するメーカーとしての活動を行っています。ボンドセグメントが関わる分野は、住まいの内装工事に使用される住宅関連分野、ビル・マンション、橋・トンネルなどを直す際に使用される土木建築関連分野、工場の生産ラインで使用される産業資材関連分野、工作・DIYで使用される一般家庭用関連分野など多岐にわたります。浦和と大阪に研究開発拠点を備え、製品の開発・改良を行っています。生産拠点は滋賀工場・栃木工場・浦和工場の3拠点です。また、滋賀と栃木には自社で物流センターを構え、スピーディーな出荷とお客様へのサービス向上を目指し運営しています。



売上高構成比



売上高 **28,332** 百万円

前年同四半期比 **+2.1%**

営業利益 **2,393** 百万円

前年同四半期比 **+9.8%**

セグメント構成

コニシ(株) ボンド営業本部
 水口化学産業(株) ボンドケミカル商事(株) ボンド販売(株) ボンド物流(株)
 ウォールボンド工業(株) サンライズ・エム・エス・アイ(株) (株)スタイル運輸
 科昵西貿易(上海)有限公司 科陽精細化工(蘇州)有限公司
 Kony Sunrise Trading Co.,Ltd.(タイ)
 Konishi Lemindo Vietnam Co.,Ltd.(ベトナム)

注：平成28年4月1日付で矢沢化学工業(株)は、ウォールボンド工業(株)に社名変更しております。

当第2四半期連結累計期間の概況

住宅関連

新設住宅着工戸数増加や他社製品切替が進み、現場にて使用される内装用接着剤やタイル用接着剤、建材二次加工用接着剤が増加しました。

産業資材関連

紙関連用途向け水性接着剤、パネル用途向けのウレタン系接着剤が引き続き順調に売上を伸ばしました。

土木建築関連

建築関連では、震災の影響を受けている九州地区では補修材やシーリング材が大きく伸長しましたが全体では微増となりました。土木関連においては、前期まで好調だった表面保護に使用される材料の販売が低調に推移しました。

一般家庭用関連

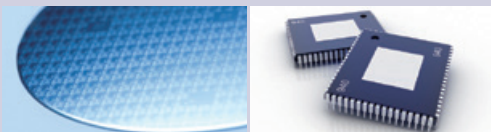
防水スプレーシリーズは定番導入が進み売上を伸ばしましたが、100円均一ショップの販売ルートは微減となりました。



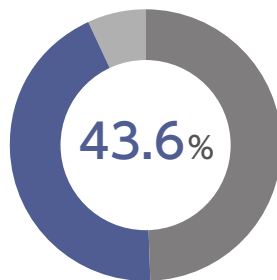
化成品

事業内容

企業間を結ぶ化学品専門商社として、メーカーから原料を仕入れて、ユーザーに販売するといった活動を行っています。化学品、塗料、電子電機、自動車、生活資材などの分野を中心に、中国、台湾、タイ、インド、インドネシアの海外拠点とも連携を図りお客様のニーズにお応えしています。



売上高構成比



売上高 **24,980** 百万円

前年同四半期比 **+0.2%**

営業利益 **98** 百万円

前年同四半期比 **-64.7%**

当第2四半期連結累計期間の概況

化学工業および電子・電機業界向け

化学工業業界向けは減少しましたが、新たに納入を開始したセンサー用や中国の電気バス用などの電子・電機業界向け商材は好調に推移しました。

自動車業界向け

ハイブリッド車を中心に使用される部材の増加が継続しており大きく売上を伸ばしました。

塗料業界向け

住宅用、建築用、自動車補修用塗料の需要は低迷しており、塗料向け商材全般が低調に推移しました。

セグメント構成

コニシ(株) 化成品営業本部
丸安産業(株) 科昵西貿易(上海)有限公司 PT.KONISHI INDONESIA (インドネシア)
Kony Sunrise Trading Co.,Ltd.(タイ) KF Instruments India Pvt. Ltd.(インド)
台湾丸安股份有限公司

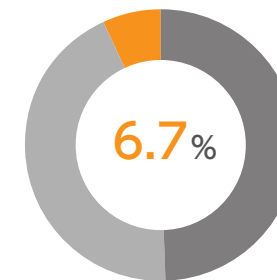
土木建設工事

事業内容

高速道路や鉄道、学校や病院などの補修・補強や耐震化工事を請け負い、現場の施工管理を行う工事請負事業および橋梁・高速道路の工事における新設上部床板工事業を主たる事業として行っています。



売上高構成比



売上高 **3,843** 百万円

前年同四半期比 **+14.7%**

営業利益 **107** 百万円

前年同四半期比 **-28.1%**

当第2四半期連結累計期間の概況

インフラおよびストック市場における補修・改修・補強工事が堅調に推移し、また、受注物件も順調に完工したため売上を伸ばしました。

セグメント構成

ボンドエンジニアリング(株) 近畿鉄筋コンクリート(株) コニシ工営(株)

その他

化学品データベースシステムの販売および不動産賃貸業となり、売上高1億72百万円(前年同四半期比49.7%減)、営業利益は22百万円(前年同四半期比4.6%減)となりました。

セグメント構成

コニシ(株) 不動産部門 日本ケミカルデータベース(株)

～旧小西家住宅紹介～

大阪船場、道修町の堺筋沿いにひととき目立つ漆黒の館。
今回は旧小西家住宅をご紹介します。

当社は、古くから“くすりの町”として栄えていた大阪の道修町において初代小西儀助が明治3年(1870年)に薬種商を創業したことに始まります。その後、関西で初めて洋酒の製造に乗り出すなど、次々と新規事業を興し、二代目小西儀助のたぐいまれな商才によって店は繁盛店へと発展をとげました。

明治33年(1900年)、二代目儀助は道修町通りと堺筋が交差する角地に320坪余りもの敷地を購入し、木材集めから細部の意匠にまでこだわり約3年もの月日をかけて明治36年(1903年)に旧小西家住宅を完成させました。住人は多いときで家人と従業員、使用人あわせて50人以上と大阪で

も屈指の大所帯で、従業員たちは家族とともに寝起きし、日常生活も含めて厳しく躰けられたといひます。サントリー創業者である鳥井信治郎氏は二代目儀助の時代に奉公し、洋酒の造り方やブレンド技術を身に付けました。現在、日本経済新聞朝刊に掲載されている伊集院静氏の連載小説「琥珀の夢－小説、鳥井信治郎と末裔」では鳥井氏の丁稚奉公時代も描写されており、当時の様子がしのべれます。

この旧小西家住宅は平成6年(1994年)まで当社の本社オフィスとして使用しており、現在も子会社のボンドケミカル商事の事務所として店舗棟の一部を使用しております。また、平成13年(2001年)には文部科学大臣により国の「重要文化財」に指定されました。



2



1



3

- 1 西南側より見た全景。店舗棟、居住棟、蔵が並び表屋造が特徴。
- 2 二代目小西儀助
- 3 大正9年(1920年)の旧小西家住宅。写真にもあるように創建時には3階建であったが、関東大震災後に地震に弱いという理由で3階部分は撤去され、ほぼ現在のような外観ができた。
- 4 道修町通りに面する堂々とした表屋造の正面。
- 5 レンガ積み「へっつい」や井戸がある通り庭。番頭格は板床で、丁稚使用人たちは土間で慌ただしく食事をとるのが常であったという。
- 6 2階の夫人の居室。琵琶床や平書院を備えた床構え。
- 7 1階の儀助の居室。屋敷建造にあたり、儀助は全国から良材を集めた。その一端がこの座敷にも垣間見える。近年まで社長室であった。
- 8 座敷より前栽を望む。左奥が衣装蔵。



4



5



6



7



8

栃木工場が設立30周年を迎えました！

栃木工場は昭和61年に操業を開始し、今年で30周年を迎えることができました。

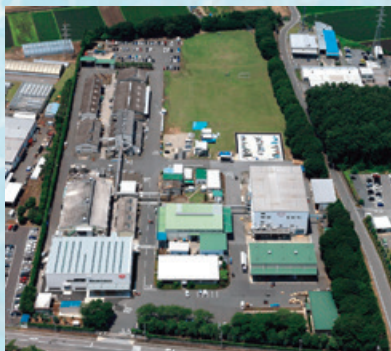
30年前の設立当時は、主にエポキシ樹脂系接着剤と酢酸ビニル樹脂系溶剤型接着剤の2種類を製造しておりましたが、現在では合成ゴム系接着剤、ウレタン樹脂系接着剤、変成シリコン系接着剤を加えて大きく成長いたしました。今後も、栃木工場が40周年、更に50周年を迎えられるように、邁進していきます。



現在の栃木工場



平成9年の航空写真

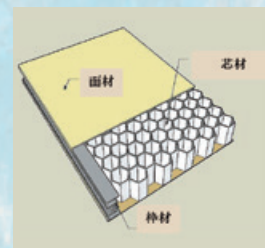


平成26年の航空写真

【鋼製パネル用接着剤】の販売が好調です！

保冷トラックのサイドパネルやドアパネル、または玄関ドアなどの鋼製ドアパネルに使用される接着剤、「KU500シリーズ」の販売が好調です。

パッと見た感じは、1枚の金属製の板のように見えるこれらのパネルですが、アルミなどの面材の間に、ポリスチレンフォームやハニカムコアと呼ばれる芯材をサンドイッチした構成になっています。接着剤を多条ビート状に塗布し、貼りあわせを行い加熱プレスにて接着させます。



鋼製パネル構成図



接着剤塗布場面

鋼製パネル用接着剤の販売数量はここ5年で約2倍となっており、今後ますます増加が期待される接着剤です。



トラックのサイドパネルにも使用



玄関ドアにも採用

高崎営業所が移転し、前橋営業所に名称変更しました。

平成28年6月27日より新事務所での営業を開始しました。群馬県内および新潟、長野エリアへのアクセスが良く、営業活動を効率的に行うことが可能となりました。工業用分野や土木建設分野でのさらなる拡販をめざし、新規需要を取り込むべく活動をしています。



連結財務諸表

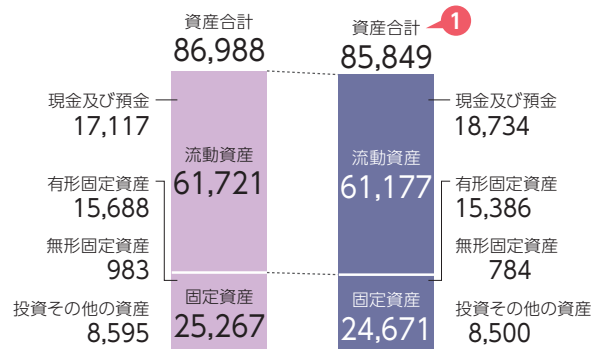
連結貸借対照表

(百万円)

資産の部

前連結会計年度末
平成28年3月31日現在

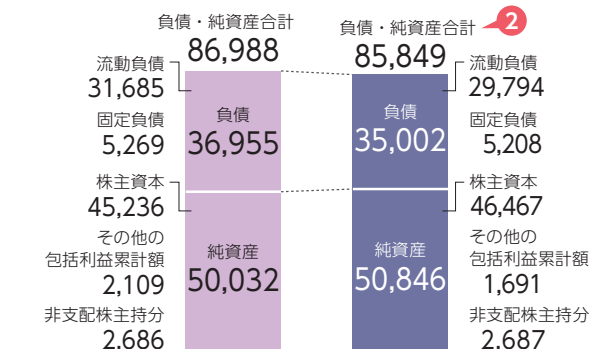
当第2四半期連結会計期間末
平成28年9月30日現在



負債・純資産の部

前連結会計年度末
平成28年3月31日現在

当第2四半期連結会計期間末
平成28年9月30日現在



POINT 1 資産

資産は、現金及び預金が16億16百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が23億4百万円、有形固定資産が3億2百万円、無形固定資産が1億98百万円、投資有価証券が1億1百万円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ11億39百万円減少しました。

POINT 2 負債・純資産

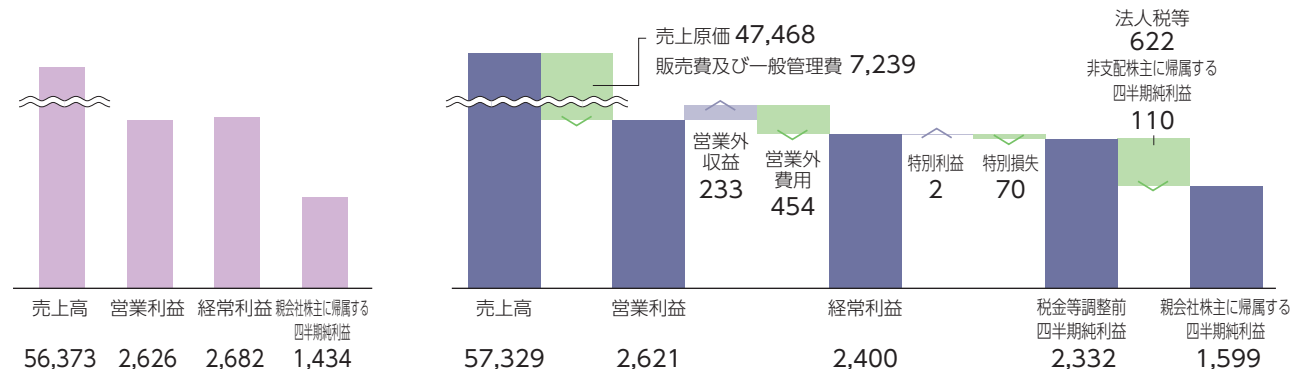
負債は、支払手形及び買掛金が9億62百万円、未払法人税等が6億27百万円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ19億52百万円減少しました。純資産は、為替換算調整勘定が3億30百万円減少したものの、利益剰余金が12億31百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ8億13百万円増加しました。

連結損益計算書

(百万円)

前第2四半期連結累計期間
平成27年4月1日～平成27年9月30日

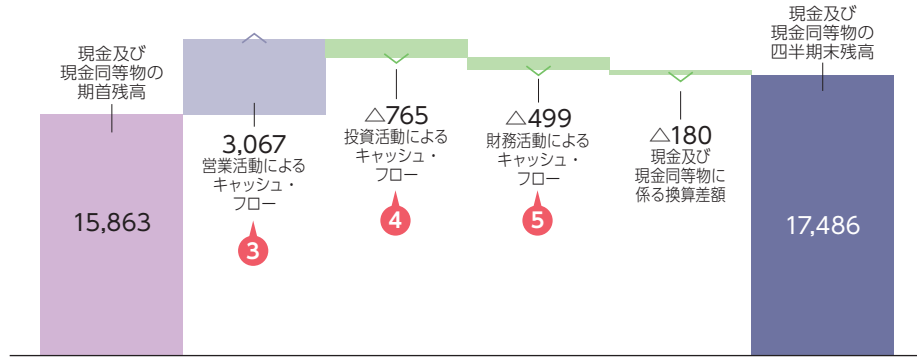
当第2四半期連結累計期間
平成28年4月1日～平成28年9月30日



連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

当第2四半期連結累計期間
平成28年4月1日～平成28年9月30日



POINT 3 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、仕入債務の減少額が8億46百万円、法人税等の支払額が12億62百万円あったものの、税金等調整前四半期純利益が23億32百万円、減価償却費が8億98百万円、売上債権の減少額が21億10百万円あったこと等により30億67百万円となりました。

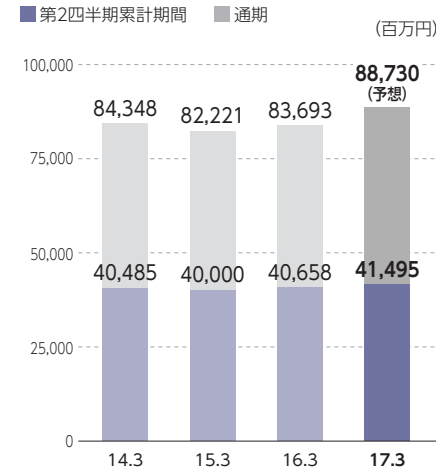
POINT 4 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出が7億1百万円あったこと等により7億65百万円となりました。

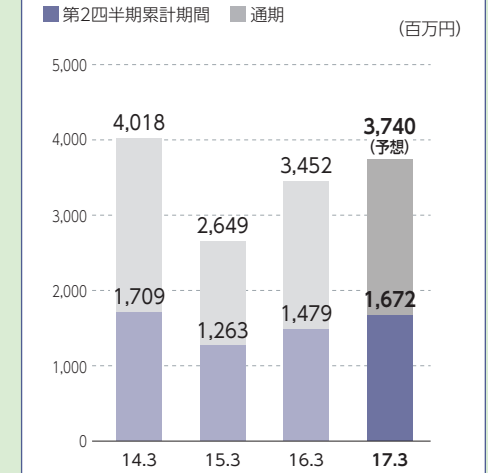
POINT 5 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、配当金の支払額が3億67百万円あったこと等により4億99百万円となりました。

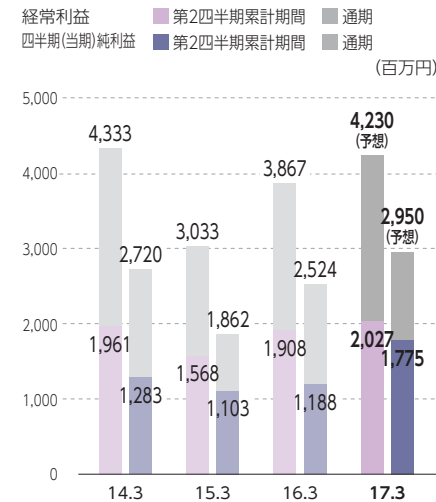
売上高



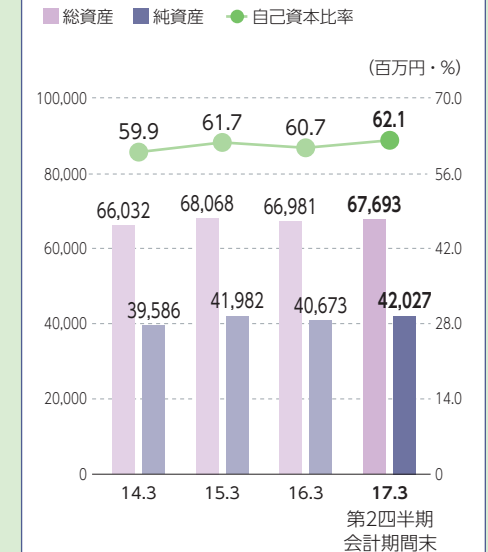
営業利益



経常利益・四半期(当期)純利益



総資産・純資産・自己資本比率



会社概要

会社概要

(平成28年9月30日現在)

設立 1925年(大正14年)9月25日

資本金 46億3百万円

従業員数 連結1,286名、単独737名

証券コード 4956

事業所
本店 〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目6番10号
大阪本社 〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目7番1号
 北浜TNKビル
東京本社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2丁目3番地
 竹橋スクエア

支店 名古屋、福岡、横浜、札幌

営業所 仙台、栃木、前橋、静岡、金沢、広島、高松、沖縄

製造拠点 栃木工場、浦和工場、滋賀工場

研究所 浦和研究所、基礎研究所、大阪研究所

物流拠点 栃木物流センター、滋賀物流センター

役員

(平成28年9月30日現在)

代表取締役社長	横田 隆	常勤監査役	東郷 正人
取締役常務執行役員	日下部 悟	社外監査役	狩野 仁
取締役常務執行役員	有澤 彰三	社外監査役	吉川 郁夫
取締役執行役員	須藤 孝也	執行役員	野田 昌治
取締役執行役員	井上 孝一郎	執行役員	松端 博文
取締役執行役員	大山 啓一	執行役員	巖 利彦
取締役	小西 哲夫	執行役員	吉川 洋明
社外取締役	高瀬 桂子	執行役員	中村 耕一
社外取締役	木村 亮	執行役員	高中 喜一郎



株式の状況

株式の状況

(平成28年9月30日現在)

発行可能株式総数	160,800,000株
発行済株式の総数	40,707,440株
1単元の株式数	100株
株主数	5,018名

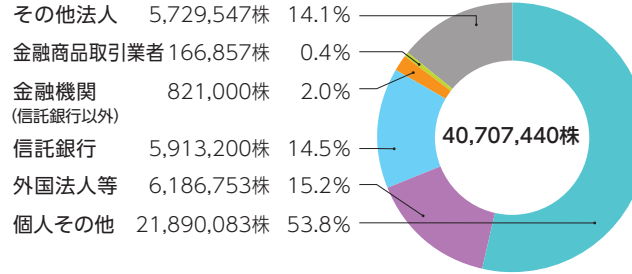
※2016年4月1日を効力発生日として、普通株式を1株につき2株の割合をもって分割しております。

大株主 (上位10名)

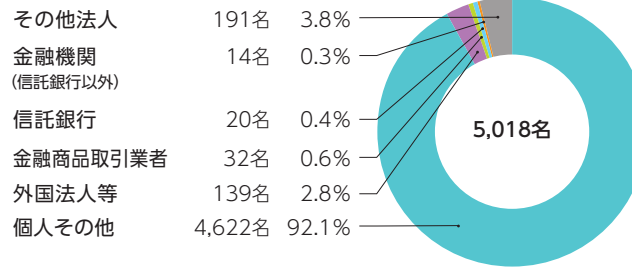
株主名	持株数(株)	出資比率(%)
コニシ共栄会	2,325,700	6.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,167,000	3.17
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,022,900	2.78
小西千代子	820,848	2.23
小西啓二	738,096	2.00
コニシ従業員持株会	714,356	1.94
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	705,400	1.91
井上道子	690,000	1.87
小西哲夫	685,000	1.86
株式会社カネカ	684,000	1.86

(注1)日本マスタートラスト信託銀行株式会社、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数はそれぞれ1,167千株および1,022千株であります。
(注2)出資比率は、自己株式(3,954,912株)を控除して記載しております。また、小数第3位以下を切り捨てて表示しております。

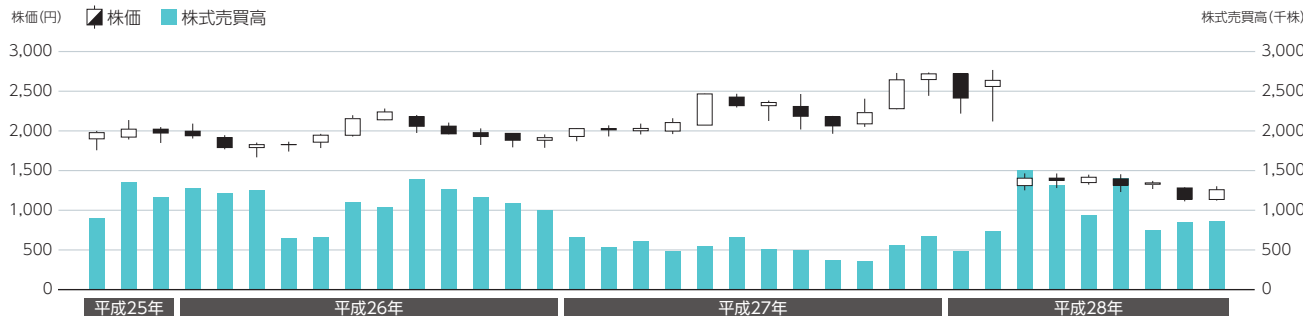
所有者別株式数の分布状況



所有者別株主数の分布状況



株価および株式売買高の推移



WEB SITE

ホームページ紹介

当社ホームページでは、株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報について積極的に情報開示を行っております。より深くご理解いただくためにも、ぜひご利用ください。



アドレス

<http://www.bond.co.jp/ir/index.html>



項目	2014年度実績		2015年度実績		2016年度実績		2017年度実績	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上高	11,021	104.7%	11,766	113.0%	14,700	125.7%	16,771	134.8%
売上総利益	24,220	48.8%	23,940	47.7%	27,022	56.2%	27,754	57.7%
営業利益	24,702	49.6%	24,222	48.2%	24,220	49.5%	26,224	54.2%
経常利益	-	-	-	-	-	-	28,122	-
税引前利益	2,040	3.9%	2,499	4.9%	3,404	7.2%	3,894	7.9%
当期利益	2,224	4.4%	2,622	5.2%	3,320	7.1%	3,822	7.9%
EPS	2,224	4.4%	2,622	5.2%	3,320	7.1%	3,822	7.9%
EPS(調整後)	2,040	4.1%	2,499	5.0%	3,404	7.2%	3,894	8.0%
EPS(調整後)(円)	196.48	202.80	238.22	253.28	342.63	360.42	388.23	-
EPS(円)	2.8	3.1	3.8	4.6	5.0	5.7	5.2	5.8

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領株主
確定日 3月31日

中間配当金受領株主
確定日 9月30日

定時株主総会 6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL 0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

公 告 の 方 法 電子公告により行う
公告掲載URL
<http://www.bond.co.jp/ir/koukoku/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



大阪本社 / 〒541-0045 大阪市中央区道修町1-7-1 TEL 06(6228)2811
東京本社 / 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-3 TEL 03(5259)5711



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。



この印刷物は、環境に配慮しFSCの
認証紙と水なし印刷方式を採用し
ています。